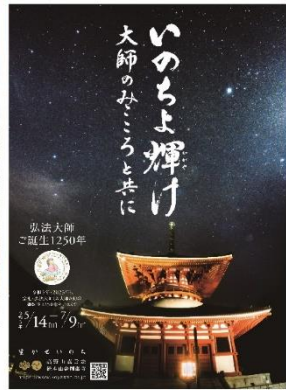


護持会広報

編集・発行 放光院護持会広報担当

作成日 2023. 12. 1 NO 1

令和5年は宗祖弘法大師御誕生1250年の記念の年です。高野山では6月15日を中心として57日間記念大法会(だいほうかい:宗派を開いた人物)が執行されました。高野山は弘法大師さまが真言密教を日本に広め、僧侶が修行するための道場として、弘仁7年(816年)にお開きになられた聖地です。弘法大師さまとはどんな方だったのでしょうか。宝亀5年(774年)6月15日に誕生。



現在の香川県善通寺市。本名は佐伯真魚。22歳で空海と改名。804年密教を学ぶために遣唐使として唐(中国)に渡り密教を学ぶ。806年に帰国後真言宗を開く。815年(42歳)四国88ヶ所霊場を開創したと言われている。816年高野山に金剛峯寺を創建。日本国内での布教活動に力を注ぎ、残した功績は数知れない。全国に約14,000のお寺がある真言宗の開祖。弘法大師さまを拝む時は「南無大師遍照金剛」と声にします。著書、書道、芸術・文化、土木技術などの活動に取り組みその功績は計り知れない。日本で最も有名なお坊さん。835年、享年62歳(満60歳)に入定(にゆうじょう:精神を統一して煩惱を去り、無我の境地に入ること)。

弘法大師さまは、放光院のご本尊三仏のうちのお一人です。本寺には慶応元年(江戸時代:1865年8月4日に夜久野町今西村の定七という人物が奉納した仏像です。禅宗に属する放光院に真言宗の大師を祀るのは、宗旨宗派を超越した大衆性に生きる大師を祀ったものと言えるでしょう。

弘法大師さまは、放光院のご本尊三仏のうちのお一人です。本寺には慶応元年(江戸時代:1865年8月4日に夜久野町今西村の定七という人物が奉納した仏像です。禅宗に属する放光院に真言宗の大師を祀るのは、宗旨宗派を超越した大衆性に生きる大師を祀ったものと言えるでしょう。

[高野山参拝旅行に思う] 弘法大師さま生誕1250年祭の本年、放光院護持会の女性複数名が、「元気で健やかに生活できるようにお参りしましょう」と呼びかけ、11月16日～17日に参拝者23名が高野山に出かけられました。この催しは、放光院で弘法大師さまをお祀りし、春の「お大師さん」、秋の「石仏巡りの日」のメイン行事の主役でもあり且つ今後の持続と継承に大いに関係があり、意義深いお参りになったことだと思います。放光院の今後は護持・持続が多難ですが、この度の企画・行動力には頭の下がる思いがします。このバイタリティと柔軟な発想と女性としての意気込み・視点は、今後の護持会運営に必ずや相乗

茶堂ギャラリー



宝山展望台よりの「雲海」



夜久野温泉の東屋



ねりを呼ぶでしょう。ここ数年の動きを見ても頷けます。

放光院境内の清掃・供花・花壇栽培。堂内の環境整備。よだれかけの作成と交換。石仏破損帖佐。お大師盛会の裏方。石仏巡りの日のおにぎり提供・石仏修復寄付募集・鉢花販売。放光院の歴史を辿る高源寺探訪。運営委員会や総会での積極的発言と提言。まさに「参画・協働」が放光院活性化のキーワードと言えます。



ふくら雀→冬になると外でまんまるに膨らむ雀のこと